

日本舞台音響家協会 御中

拝啓 初霜の候 皆様におかれましてはますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

能登地震におきまして、大きな被害のあった七尾子ども劇場、輪島おやこ劇場に対し、ご支援いただきありがとうございました。

一度、七尾子ども劇場、輪島おやこ劇場の状況をご報告したく、時間が経ちましたが7月までの状況をまとめたものを同封いたします。

昨年9月の豪雨災害で大きな被害のあった輪島市はいまだ復興の道筋がみえていないように思います。公費解体により空き地が広がる様子は震災前とずいぶんと違いますし、今後の生活再建の見通しがなかなか立たない方もいるそうです。

そのような現状ですが、輪島おやこ劇場はこの春から会員が集まるようになり、6月に例会を地域の親子も迎えて開催することができました。また7月以降には、定期総会、例会企画総会も成立させ、ご支援を元に、例会などの本数も増やすことができました。少しずつですが劇場の活動をすることで、会員のつながりも戻り、元気を出してもらえたら嬉しいなと思っております。

七尾子ども劇場は支援をいただいて例年より充実した例会企画ができ、会員拡大もしていきたいと話しております。

能登の話題が報道などで取り上げられる機会が少なくなってまいりましたが、能登の子どもたち、現地の劇場活動を心の片隅においていただけると有難いです。

略儀ながら書中をもちましてお礼申し上げます。

朝晩の冷え込みが厳しくなってまいりました。お体ご自愛下さい。

敬具

2025年10月25日

子ども劇場おやこ劇場富山・石川連絡会
運営委員長 岡島 広子
事務局 畠山三和子

七尾子ども劇場・輪島おやこ劇場に ご支援ありがとうございます！

2024年1月1日の震災、9月21～22日の豪雨災害があり、大きな被害を受けた能登。七尾子ども劇場・輪島おやこ劇場の会員も生活にさまざまな影響がありました。

劇場の活動も難しい状況でしたが、全国の創造団体や劇場関係者、他にもたくさんの方にご支援いただき、みなさんのお気持ちは七尾・輪島の劇場活動を支え、何より会員の心の支えになりました。全国に自分たちを思ってくれる方がいることは本当に心強いです。

地震から1年半が経ち、これまでの七尾、輪島の活動状況をお知らせいたします。今後も能登と七尾・輪島の劇場のことを応援していただければ有難いです。

子ども劇場おやこ劇場富山・石川連絡会 運営委員長 岡島 広子
事務局 畠山三和子

【七尾子ども劇場の1年半】

・劇場の人と会いたい（2024・2月）

奥能登ほどの被害はないもののライフライン（特に水道）の復旧に時間がかかった七尾市。そんな中でも「劇場の人と会って話がしたい」という声が上がリ、地震の翌月に20名ほどが集まり、たこ焼きパーティをしました。子どもたちも久しぶりに会って遊び、とても楽しそうでした。辛い状況でも助け合い、支え合い、笑い合えることができるのが“劇場の仲間”。

・子どもたちのために、ママたちのために、動き出す（2024.5月～7月）

会員の「大きいお祭りが中止になり、子どもたちのために何かしたい」という思いが繋がり、東京おもちゃ美術館（芸術と遊び創造協会）とご縁ができ、『木育キャラバン』が5月6日に花嫁のれん館で開催されたました。全児演からのボランティア公演はたくさん堂さん。人形劇に子どもたちのリアクションが大きくて、元気な声が会場に響きました。

また「こういう時だからこそ、元気の出る話が聞きたい」「会員ではないママたちにも聞いてほしい」ということで、よろず劇場とんがらし成田さんをおよびして「りょうちゃんのおもしろ子育てトークライブ」を7月に開催。元気がでました！次の例会からの入会もありました！！

・地震後、初例会！その後も活動を継続（2024.7月～）

1月に予定していた風の子中部『おしくらまんぼ』。7月になって久しぶりの例会ができました！子どもたちも『お約束』など担当。大人も子どもも、3人の演技に笑ったりちょっと考えたり。“生の舞台”の良さをあらためて実感しました。

それ以降も、8月には子育てトークライブも好評だった、とんがらしの例会を実施。また市民劇場さんからイツフォーリーズさんの公演に招待していただきました。



9月には輪島とコースで木育キャラバンを再度開催。10月は輪島との合同特別鑑賞会がありました。11月、12月には高学年例会の事前活動と例会。今年に入り、2月に例会があり、延期なども含めすべての例会ができました。また文化庁キャラバン俳優館『あらしのよるに』にも取り組みました。



・子どもまつりも会員みんなで盛り上げ!!（2025.4月）



劇場といえば“まつり”。コロナからずっと縮小傾向だったのですが、今年の4月は久しぶりに大きな規模で会員みんなが関わって開催しました。ヒゲキタさんのプラネタリウムや、地域の子ども食堂の方とも連携して、当日はたくさんの親子連れが来場し盛り上がりしました。劇場クイズなど子ども劇場をPRしました。

地震の影響もある中で、約1年前から例会を中心に絶え間なく活動をしてきています。今後は自主活動なども考え、新しい仲間も増やしていきたいと話しています。

【輪島おやこ劇場の1年半】

輪島市は、2024年1月の地震から復旧している最中の9月に集中豪雨災害が起き、市内全域で大きな被害がありました。地震の後には気丈だった会員が、度重なる自然災害に「心が折れた」と後に語っていました。

今現在、復興は少しずつ進んでいますが、地域による差が出てきています。

輪島市の2025年度の小中学校児童数は、地震前と比べて約3割減の780人余りです（2025.2月の調査数）。市外に転校したり、避難先の学校に一時的に通学したりするケースが相次いだようです。9つあった小学校は児童数に合わせて、3つに統合される案が出ています。

輪島おやこ劇場の会員も3分の1が市外にいます。輪島の運営委員長も未だ輪島には戻れず七尾市から輪島市の仕事場へ通っている状態です。使用できる会場も1か所のみ。また事務所として借りていた公民館も解体の対象となっています。日常生活の不便さ、将来への不安もあると思います。

震災前とは比べようもない状況ですが、みなさんからの支援のお気持ちを支えに、少しずつ動き始めたことを報告します。

・輪島の子どもたちも木育キャラバンで遊んでほしい（2024.9.16）

5月の七尾会場にて「輪島の子どもたちは、運動場も公園も仮設住宅が建ってしまって、遊ぶところがない。木育キャラバンがきたら、きっと喜ぶと思う。輪島でも子どもたちのために開きたい」と言った運営委員長たちの思いを受けて、輪島市でも木育キャラバンを開催。東京おもちゃ美術館、全国の姉妹館からスタッフが来られて、雨の中、たくさんの来場者を迎えることが出来ました。輪島の会員も前日準備から知人友人を誘って手伝いました。「久しぶりに、劇場じゃ



イツフォーリーズさんが輪島、七尾の2日間、ボランティア公演。会場に明るい歌声が響きました。

ないけどなんか劇場らしいことしたね」という会員の言葉。これが活動再開のキッカケになればいいと思ったその1週間後に、あの豪雨災害がおきました。

・七尾との合同特別鑑賞会になんとか輪島から会員が集まりました(2024.10月)

豪雨災害の甚大な被害から2週間も経っていませんでしたが、七尾市はあまり被害がなかったため、予定通り特別鑑賞会を実施しました。これは本来5月に七尾・輪島の合同例会として予定していたもの。震災があり5か月延期して、地域の親子にも観てもらいたいと全国フォーラム“プロジェクト明日”から支援いただき、無料の特別鑑賞会にしました。

豪雨災害の影響で会員のみでの利用でしたが、輪島からもマイクロバスを出しました。久しぶりに輪島の会員が15名ほど集まりました。朝から準備して、車座で昼食を一緒に食べながら「今年になって初めてこんなに集まるねえ」と話していました。

作品は劇団風の子中部「ユエと瑠璃色の石」。運営委員長2人の挨拶で開演。いつもの小学校の体育館がユエ達の生きる世界に変わると、子どもも大人も集中してその世界に見入っていました。

片付け後に劇団と劇場が集合。演者も地震と豪雨の被害を考えると、どういう気持ちで演じればいいのかすごく緊張したとのこと。劇場の面々からは「作品に引き込まれた」「勇気をもらった」「一般の子どもが初めて舞台を観ておもしろかったーと言って帰った。誘ってよかった」という感想が伝えられました。



・2025年春、少しずつ活動を再開します

4月に予定している例会をどうするか、という話し合いをきっかけに、地震以来久しぶりに対面での運営委員会を3月に行いました。そこで、いきなり例会に集まるのではなく、みんながゆっくり話をする場を設け、お互いの近況や今後の劇場の話をするのがよいのではないか、という結論になりました。

4月に会員に声をかけ、20名弱が集まって昼食やデザートと一緒に作り、みんなで食べながらこの1年を振り返りました。劇場の会員だから、話したいこと、言うことができることがたくさんあって、時間がどれだけあっても足りないのですが、今後の劇場の話も大事です。地域の子どもの人数は一気に減少しましたが、劇場を知ってもらって会員になってもらいたい、やはり仲間を増やしたい、という思いを共有し、いただいた支援で例会本数を増やし、会費も半額という形で活動して、広報もしていくということになりました。

・1年7か月ぶりの例会(2025.6月)

2024年度例会で延期していた人形劇団京芸「へんてこげきじょう」を1年越しで実施することになりました。地域の子もたちにも「おやこ劇場で観る人形劇」を体験してほしい、おやこ劇場のことを知ってもらおう機会にしたい、と保育園などにチラシを配布、会員も知り合いに声をかけて、当日は50名ほどの親子が集まりました。実は欠席の会員が多く、ほとんどが会員外だ

ったのですが、楽しそうに観ていました。(会員外も入る無料招待の鑑賞会ということで、全国フォーラム“プロジェクト明日”の支援をいただきました)

例会後に劇団の方と昼食交流会の場をもちました。例会の感想や作品の作り方、観ていた子どもたちの様子、輪島市内の道路状況などいろいろな話ができました。

少人数でしたが小中高生、青年、大人が関わって例会の準備から交流会の食事の用意、搬出まで、例会を無事におえることができました。



例会終演後の様子



搬出まで終わって笑顔の集合写真

輪島は地域全体が復興の途中であり、町の景色も大きく変わって、地震前とは全く違う日常を過ごしている会員もいます。そのような状況でも、劇場の活動を再開したのは、会員同士のつながりがあり、劇場が会員にも地域にも必要だと感じているからだと思います。少しずつではありますが、集まる機会を増やし、活動していこうという話が進んでいます。

私たち子ども劇場おやこ劇場富山・石川連絡会は、劇場の存在が、少しでも力になることを願って、今後も子ども達の居場所として輪島おやこ劇場の活動を輪島の方達と一緒に考え、応援していきたいと思っています。

●2025/1/25 富山石川連絡会主催

『劇場の中で震災を語ろう、聴こう』

劇場の会員同士だから話せる、自分事として聴くことができるのではないかと輪島の会員の話を中心に進めました。「人のつながりが支え」

「能登を忘れないでほしい」「遊びにでもいいから来て見てほしい」というのが、今の気持ちです。



報道も少なくなり、能登の現在の状況というのはあまり関心がもたれなくなっているように感じます。しかし、時間が経ってきた今だからこそ、劇場をどのように続けていくかという難しさがあるように思います。七尾も輪島も、震災前から会員数は少なかったのですが、特に輪島は市外に出てしまった会員もいるので、さらに厳しい状態です。それでも早い段階で「劇場は続けたい」と運営委員長が言ってくれたので、富山石川連絡会としても皆様からの支援を集め、活動の後押しのために使わせていただきます。皆様にたびたびご報告をすることができず心苦しくもありますが、七尾子ども劇場のFacebook、輪島おやこ劇場のInstagramなどもご覧いただき、能登に気持ちを寄せていただければ有難いです。